

事務所 〒690-0874 松江市中原町167-1-3F TEL 21-6143 FAX 31-8985  
 HP: http://www.matsue-rotary.jp E-mail: office@matsue-rotary.jp

**第 3488 回例会** (令和 8 年 3 月 11 日・水)

**今週のプログラム**

3月11日(水) 会員スピーチ  
 「防災に関するお話」  
 (株)NTTドコモ中国支社 島根支店長 佐藤亮治氏

**次週のプログラム**

3月25日(水) ゲストスピーチ  
 「音楽を通じた地域貢献」  
 島根大学 吹奏楽部  
 国近 茉央さん(法文学部3回生)  
 松尾 海里さん(総合理工学部3回生)  
 「島根大学鐵道研究会 令和7年度活動報告」  
 島根大学 鐵道研究会  
 吉弘 幹太さん(生物資源科学部3回生)  
 石井 乙一さん(法文学部2回生)

**●例会変更のお知らせ**

月 日	クラブ名	受付場所
3月16日(月)	松江南	松江エクセルホテル東急
3月17日(火)	松江しんじ湖	ホテル一畑
3月19日(木)	米子中央	ANAクラウンプラザホテル米子
3月19日(木)	松江東	ホテル一畑
3月26日(木)	米子中央	ANAクラウンプラザホテル米子
3月29日(日)	松江南	松江エクセルホテル東急
3月30日(月)	松江南	松江エクセルホテル東急
3月30日(月)	米子南	ANAクラウンプラザホテル米子
3月31日(火)	松江しんじ湖	ホテル一畑
4月2日(木)	松江東	ホテル一畑
4月7日(火)	松江しんじ湖	ホテル一畑
4月27日(月)	松江南	松江エクセルホテル東急
4月28日(火)	松江しんじ湖	ホテル一畑
4月30日(木)	松江東	ホテル一畑

●●●結婚月●●●

舟越 隆明会員 7日 福田 正明会員 28日

**2026年3月～4月の予定**

3月25日(水) 次年度理事・役員・委員長会 講師 バストガバナー 庄司尚史氏  
 ホテル一畑 松 18:30～20:50 演題 「ロータリーあれこれ」  
 3月29日(日) 15:40～16:10 閉会セレモニー  
 第3・第4・第5グループ合同Intercity Meeting 16:20～16:40 休憩  
 ホスト：松江しんじ湖RC 会場：ホテル一畑 平安 16:40～17:50 懇親会  
 12:15～13:00 受付  
 13:00～13:30 開会セレモニー  
 13:40～14:50 講演 I  
 講師 作家 田淵久美子氏  
 演題 「ヘルンとセツにみる地方創生」  
 14:50～15:00 休憩  
 15:00～15:40 講演 II  
 4月5日(日) クラブリーダーシップラーニングセミナー  
 (旧地区協議会)  
 11:00～17:00 倉敷アイビースクエア  
 4月15日(水) 新会員歓迎会  
 なにわー水 18:30～20:30 (予定)  
 4月26日(日) 米山記念奨学生オリエンテーション  
 (米山奨学生とカウンセラー出席)

**第3487回例会記録**

令和 8 年 3 月 4 日 (水・曇り時々雨)

	会員数 (人)	出席者数 (人)	欠席者数 (人)	出席率 (%) (出席免除会員含む)	前々回補正 (%) (出席免除会員含む)
松江クラブ	60	41 (リアライズ31)	19	74.55	84.75

メーキャップ：錦織、舟越、山田(松江南)、福田(衛星)、友塚(松江4RC会長幹事会)、佐藤尚(理事会)

**会務報告**

後藤 勇会長

- 本日のゲストスピーカー紹介  
 KASAGI 代表・デザイナー 笠木真衣様とご家族の皆様

- 衛星クラブから 2出席

友塚順子副幹事

- 本日例会終了後、定例理事会開催

## 委員会報告

- 親睦出席委員会 津久井 宏会員  
出席報告
- プロプラム委員会 舟越隆明委員長  
今後のプログラム予定のおしらせとスピーチ予定  
の松島屋 井原悠様御来訪の紹介

## プログラム

「カサギさんはどうしてそんなことをやっているんですか？」

KASAGI 代表・デザイナー 笠木真衣氏



## ニコニコ箱

20,000 円

後藤（笠木真衣さんご一家をゲストスピーカーにお迎えして。）

小林、谷口正、友塚（笠木さんのスピーチを楽しみに。）

木村（笠木さまのスピーチに。遅刻してすみません!!）

高梨（笠木歯科では家族全員お世話になっております。）

小林（3月29日のIMが近づきました。ガバナー補佐主催なので皆様出席よろしくお祈いします。）

堀江（松江医師会立の看護学校の卒業式のため、早退させて頂きます。（現在、看護学校運営委員長をしています。）

谷口正（出席100%賞）

白根（誕生月）

堀江、高梨（入会月）

白根（結婚月）

ベストメッセージ賞：該当なし

司会 白根澄男会場監督

### 【3月理事会報告】

報告事項

・IM参加者 松江IRC 28名 衛星クラブ 8名

協議事項

・4月15日（水）新会員歓迎会

なにわー水 18:30～

# 松江ヤングリーダーズロータリー衛星クラブ2月単独例会

令和8年2月27日(金) かきんど(松江市秋鹿町) — 宍道湖の恵みと守り抜かれた歴史を学ぶ —

	会員数(人)	出席者数(人)	欠席者数(人)	出席率(%)
衛星クラブ	11	7	4	63.64

- 衛星クラブ出席者：内藤葉子議長、青木義親会員、片寄洋子会員、桑原正樹会員、川井香織会員、木幡晋介会員、仙田利夫会員
- 松江RC出席者：福田正明会員、勝谷有史会員

## ■ 実施報告

2月例会は「地域資源の発見・活用」をテーマに、しじみ漁師が営む秋鹿町の「かきんど」で開催しました。講師の福田正明会員(松江RC)と桑原正樹会員(衛星)から、季節や魚種で網目を変える繊細な漁法や、宍道湖の歴史について拝聴しました。

特に、戦後の国策であった「宍道湖淡水化事業」を、福田会員をはじめとする先人たちが、その英断と情熱で停止させた歴史は深く胸を打つものでした。この「賢者」たちの闘いがあったからこそ、今も汽水湖としての豊かな生態系が守られ、ヤマトシジミや白魚、天然鰻といった食文化や美しい景観を享受できています。

学習後は、地酒「玉鋼」や「豊の秋」を酌み交わしながら湖の幸を堪能。出席者全員が自らのビジネスを語り合い、地域の宝を守り活かす大切さを再確認する、極めて有意義な時間となりました。





坂口 志文 先生

2025年10月6日に大阪大学・特任教授の坂口志文先生が「制御性T細胞（Tレグ）の発見でノーベル生理学・医学賞を受賞されました。

アレルギー学、免疫学に関与する医師にとってはいずれノーベル賞を受賞すると思われていたが2025年にやっと受賞され喜ばしいことと思っているところです。個人的にも私はTレグは今一番関心を持っている免疫細胞です。

今回はこの「制御性T細胞（Tレグ）」について少し解説を加えたいと思います。

私たちの体にはウイルスや細菌などの外敵から身を守る「免疫」という仕組みがあります。しかし免疫は強すぎると自身の体まで攻撃してしまい、自己免疫疾患、（関節リウマチ、1型糖尿病、潰瘍性大腸炎）などを起こします。逆に弱すぎると（ブレーキをかけすぎると）病気には勝てません。

坂口先生の発見したTレグは当初は免疫学の中では完全に異端な学説とされ、なかなか受け入れてもらえませんでした。その後の研究の積み重ねで次第に認められようになりました。そしてTレグの発見ならびにその後の研究によっていくつかのことがわかってきました。

1. Tレグを増やす（免疫を弱める）ことで自己免疫疾患（関節リウマチ、1型糖尿病）、アレルギー反応を抑えることができる。
2. ガン治療  
ガンはTレグの働き（ブレーキ役）を利用して活動していますがそのブレーキを解除することでガンを攻撃させる新薬の開発につながって行く。
3. 臓器移植  
移植した臓器を異物として排除（拒絶反応）しないよう免疫をコントロールする。  
などが注目されています。

現在の大阪大学総長の熊ノ郷淳先生はその著書の中で「この半世紀の間、免疫学はめざましい進展をみせ、医学、生命科学においてドライビング

フォースとして多くの新しい発見、知見をもたらしてきた。」と述べていますが、今回のノーベル賞の受賞をきっかけに一日も早くいままで述べてきた疾患への薬剤が開発される日が望まれるところです。

この文章を書いている時にiPS細胞を使って重症心不全、パーキンソン病といった二つの難病の世界で初めての再生医療薬が販売実用化されるとのニュースが入ってきました。iPS細胞は山中伸弥教授が発見してからすでに20年を経たの医療への実用化です。Tレグも発見されてから20年以上経過し、世界中でその医療への実用化競争が起きていますが是非日本からの創薬として登場し医療界からの国の生産性の向上の一役を担って欲しいと考えているところです。

ところで2025年のノーベル化学賞は京都大学の北川 進先生で、「金属有機構造体」の発見での受賞でした。二人とも国際共同研究で国際的な評価によるもので日本独自のモノカルチャーではなくダイバーシティ的観点によって達成されたことに注目して頂きたいと思います。若い研究者にはどんどん海外に進出して仕事をして頂きたいと考えています。

又、坂口志文先生は「自己とは何か」という哲学的問題を意識して研究を続け、北川 進先生は「自分の感性を信じる」という哲学的な信念を曲げずに研究を続けたことが受賞に結びついたと述べていましたが二人の研究者に共通する「哲学」という言葉に注目して頂きたいと思います。

経済界の人はすでにご承知のことと思いますが今世界は驚異的なスピードで生成AIなどを中心としたテクノロジーが進化をしていてありとあらゆるところで人間とテクノロジーの境界線が混在し人間としてこれをどのように仕分けることが求められています。その時に必要なものの一つが「哲学」であるといわれていますがなかなか難題なことではあると思います。

（呼吸器科医）